

I 大学の現況及び特徴

1 現況（平成24年5月1日）

- (1) 大学名 群馬県立県民健康科学大学
 (2) 所在地 群馬県前橋市上沖町323番地1
 (3) 学部等の構成
 学部：看護学部、診療放射線学部
 研究科：看護学研究科、診療放射線学研究科
 (4) 学生数及び教員数
 学生数：学部476人、大学院25人
 専任教員数：63人
 助手数：6人

2 特徴

本学は、平成17年4月に4年制学士課程の看護学部看護学科及び診療放射線学部診療放射線学科の2学部2学科を有する大学として設立された。

本学の特徴として以下の点があげられる。

(1) 教育面の特徴

① 保健医療専門職としての看護職者・診療放射線技師の養成

最新の専門的知識・技術とともに豊かな人間性と高い倫理観を持つ保健医療専門職としての看護職者・診療放射線技師を養成し、提供する保健・医療・福祉サービスの質を向上させる。ひいては、高い資質を持つ保健医療専門職としての看護職者・診療放射線技師を県内に輩出することにより、県民への保健・医療・福祉サービスがより一層充実することに寄与することを目指す。

② 大学院による高度保健医療専門職養成教育実現の基盤確保

本県の保健医療サービスの質的向上のためには、指導的役割を担う人材の育成が急務である。そのためには、大学における4年間の基礎教育課程に加え、大学院による教育を通して、深い学識及び卓越した能力を培う必要がある。大学院の開設については、平成20年10月に文部科学省から設置認可され、県議会における条例改正手続きなどを経て、平成21年4月に看護学研究科看護学専攻及び診療放射線学研究科診療放射線学専攻の2研究科2専攻で開設されることとなった。両研究科においては、学部教育と連動可能な教育カリキュラムを基盤とすることとしている。

なお、診療放射線学研究科では、国立大学法人群馬大学との間に、両大学の強みを活かして、放射線生命医学分野において活躍する高度な人材を養成するため、大学院教育研究に関する連携推進・協力協定を締結した。

(2) 研究面の特徴

教員の研究活動を活性化するため、受託研究、共同研究、奨学寄付金等の受入に係る体制整備、さらには研究倫理審査、動物実験等の研究支援のための諸規程を整備している。また学内研究費の一部を公募による競争的配分とし、採択研究課題については研究終了後、審査委員会による評価を行っている。また大学運営組織としての学術・情報委員会の下に研究部会を置き、教員による研究の推進および外部研究資金導入のための支援体制をとっている。

(3) 地域社会への貢献面の特徴

- ① 大学教員の特性を活かした公開講座を一般地域住民や医療従事者を対象に年5回程度開催している。
- ② 群馬県が運営している「出前なんでも講座」にほとんどの教員が登録し、県内諸団体からの要請を受けて講演等を行っている。
- ③ 教員による講演会、講習会、研修会等の地域貢献活動を大学が積極的に支援し、年度ごとに地域貢献活動報告書を作成し、公表している。
- ④ 現在就業している保健医療職者の継続教育への要望に答えるべく、公開講座等を通じて臨床現場の保健医療職や短期大学、専修学校等の養成施設卒業者に対する最新の研究成果に基づいた専門性の高い知識技術に関する学習機会を提供している。今後、県内の需要動向を踏まえつつ博士課程の設置を目指し医療専門職者への卒後教育機関としての整備を進めていく考えである。

(4) 大学機関別認証評価の受審

平成23年度には学校教育法第109条第2項の規定により、認証評価機関である「独立行政法人大学評価・学位授与機構」による機関別認証評価を受審した。

評価結果については、同機構の定める「大学評価基準」を満たしているとされた。

(5) 地域連携センターの開設

地域連携に関する拠点的功能を果たすべく、「地域連携センター」を平成24年4月に開設した。本センターでは、看護師養成所等の看護学教員などの養成を目的とした「看護学教員養成課程」をはじめとした6事業を主な事業として実施した。

II 目的

1 本学の理念・目的等について

(1) 教育理念

対象の人間としての尊厳を維持しながら、高度に体系化された専門的知識・技術を基盤とした科学的根拠と倫理的根拠に基づく実践を提供し、常に最良の健康状態の実現を目指す保健医療専門職としての看護職者・診療放射線技術職者を養成する。さらに、将来、群馬県内のみならず国際的にも活用可能な研究成果を産出するとともに、わが国における最高水準のEBPの創造・開発・普及に携わり、保健・医療・福祉環境における技術革新に貢献できる人材としての基盤を築く。

(2) 教育目的

教育理念の実現を目指し、本学の所在する群馬県の県民をはじめ、様々な地域に生活する多様な人々の生涯にわたる健康水準の維持、向上に貢献する方法を学ぶ。この過程を通して、豊かな人間性を培い、変動する社会の中で個々の役割を担いながら、自然と共生し独自の文化を育み生活する人間に対する理解と関心を深める。また、科学的根拠に裏付けられた専門的知識・技術及び高い倫理的判断力を身につけ、常に対象の人間としての尊厳を維持しながら、より質の高い実践を開発・提供できる保健医療専門職としての基盤を築く。

(3) 「次世代指向型カリキュラム」について

本学では、保健医療の対象となる「人間」を中心に、社会や文化、自然への理解を深めながら系統的・段階的に専門的な知識、技術が習得できるようカリキュラムが組まれている。カリキュラムの特徴は、①従来の疾患を中心とした医学モデルに基づいたカリキュラムではなく、「人間」を中心においていること、②カリキュラム編成の理論に基づいて普遍的な教育内容の要素を組み合わせられて編成されているため、一貫性と系統性がある知的基盤を形成できること、③将来にわたり成長し、社会の変化に対応できる能力の育成を目指す「次世代指向型」である。

2 卒業生の特性

群馬県立県民健康科学大学は、卒業生に期待する特性として次の6項目を掲げ、4年間の基礎教育課程を提供し、その獲得を支援する。

- (1) わが国、特に群馬県における保健医療チームの一員として科学的根拠に基づく専門的知識・技術を駆使し、責務を全うするための基礎的能力を持つ。
- (2) 対象の人間としての尊厳を維持しながら、科学的根拠に基づく実践を実現するための基礎的能力を持つ。
- (3) 人間の生涯とその生活に対する普遍性と多様性に強い関心と深い理解を示す。
- (4) 群馬県民をはじめ様々な地域に生活する人々の健康維持・増進に対する強い使命感を持つ。
- (5) 人種、民族、年齢、性別等の異なるあらゆる対象の福祉に貢献する専門職としての責務を自覚し、高い倫理性を備える。
- (6) 科学及び学術の価値を確信し、EBPに意義を見出す。

本学は卒業生にこれらの特性を最大限に発揮しながら、保健医療専門職として自律的に成長することを期待する。また、将来的には、EBPに採用可能な研究成果を産出し、保健・医療・福

社環境における技術革新を促進するとともに、群馬県のみならず国際的にも活用可能な新たなE B Pの創造・開発・普及に貢献することを期待する。

3 大学院

本学では学部教育に続き、より高い専門性を有し、指導的役割を担う人材を育成すべく大学院修士課程を開設し、看護学研究科及び診療放射線学研究科を開設している。

看護学研究科では、看護学の理論及び応用の教授・研究を通してより高い専門性を有し、指導的役割を担う人材の育成を目的とし、実践看護学及び看護教育学の2領域を設定した。実践看護学領域は、地域や臨床の現場において科学的根拠に基づいた看護実践の革新と充実に向け研究を推進できる人材育成をめざす。看護教育学領域は、看護学教育の革新と充実のために研究成果を元にスタッフディベロップメント（SD）とファカルティディベロップメント（FD）を推進できる人材育成をめざす。

診療放射線学研究科では、高度に専門化する放射線画像検査学並びに放射線治療学に対応できる基本的な研究・教育能力及び地域医療水準の向上を目指して以下の人材の養成を目的としている。

- （1）地域保健医療において診療放射線学に関わる指導的立場に立ち、多様な実務の遂行能力、実践的な研究、及び問題解決能力を発揮できる高度医療専門職者の育成を行う。
- （2）診療放射線学の学問的体系化及びそれを構成する放射線画像検査学並びに放射線治療学の新たな技術革新を積極的に推進できる研究者としての基礎的能力を有する者の育成を行う。
- （3）将来大学及び大学院等において保健医療職者の養成に貢献できる教育者としての基礎的能力を有する人材の育成を行う。

本研究科では、高度に専門化する放射線画像検査学並びに放射線治療学に対応できる基本的な研究・教育能力を教授し、健康支援と疾病治療の向上に寄与する。また、地域医療水準の向上に貢献するとともに学術交流を一層推進し、学問成果を広く配信できる人材の育成を目指す。

4 研究

医療系の大学として、看護学、診療放射線学、基礎医学及び一般教育学等の研究を推進し、その成果を社会や教育に還元する。

本学が推進する研究は、次のいずれかに該当するものである。

- （1）地域の健康問題に寄与する内容であること。
- （2）先駆的または独創的であり、医療の発展に寄与する内容であること。
- （3）国際的な学術の発展に寄与する内容であること。
- （4）本学の教育・研究の発展に寄与する内容であること。

5 国際交流

本学ではまず、国際交流を進める上での基礎的な取組として、学術交流協定の提携拡大を推進している。具体的には、開学時から、アメリカ合衆国のSeattle Pacific University（SPU）との学術交流の締結を行っているが、平成21年度は高麗大学校（韓国）、平成23年度は香港理工大学（中華人民共和国香港特別行政区）、さらにはシカゴ大学（アメリカ合衆国）との間で学術交流協定を締結した。

上記の協定の締結により、SPUについては、隔年で学生の短期海外研修を実施している。そのほか、今年度は、国際交流サークルに所属する学生らが中心となって、学長の引率のもと、新たに学術交流協定を締結した高麗大学保健科学大学を訪問した。このような、高麗大学保健科学大学における学生間の学術的な交流や、韓国の主要な医療機関の見学の実施など、学生間の交流を促進する取組が行われた。

6 地域社会への貢献

学校教育法等の改正により、地域貢献活動が教育、研究活動に次ぐ大学の第3の役割に位置づけられた。本学は、県立の医療系大学として、大学が所有する知的財産や研究成果等を、県民をはじめ、広く教育機関、医療機関、医療従事者、行政等に対し還元することにより、県民福祉の向上に寄与することを目的に、平成24年度に大学附属機関として「地域連携センター」を設置した。

本センターは、主に6事業を展開しているが、各事業ともにセンター設置初年度として積極的な取り組みを行い、群馬県内の看護の質や保健水準の向上、教育や研究支援等を通じた診療放射線分野の発展等に寄与し始めた。平成24年度の事業実績を土台として本格的な事業展開をスタートさせる平成25年度は、各事業の質及び内容を向上・発展させ、より充実した取り組みを行う予定である。

また、大学は前橋市の桂萱地区に所在し、地域にとって最も身近な行政機関のひとつでもある。桃木川左岸に隣接していることもあり、河川堤防の美化促進や地域の一員としての各種行事にも積極的に参加し、学生達のサークル活動参加等も含め学内全体で、当地域の美化運動等に積極的に協力している。

なお、平成21年4月に土井邦雄学長が就任したことに伴い、教育・研究・地域貢献の三本柱の元に、当面の本学の行動プランを「土井プラン2010」として掲げ、学内はもとより大学設置者、県議会や地域の方々に向けても発信している。